

看護

しずおか

令和2年度

vol.6



お雛様「いい子だね!」と微笑む初節句

特集1

地域住民のため、看護職のための
地区支部活動

特集2

～学び・育み・継ぐ～
三職能活動

予定されている研修・行事等については、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止あるいは変更することがありますので、ご了承をお願いいたします。ホームページでご確認ください。

会員数

21,988名

(令和3年3月1日現在)

- 保健師 …… 537名
- 助産師 …… 847名
- 看護師 …… 19,903名
- 准看護師 …… 701名



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<https://www.shizuoka-na.jp/>

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用下さい。



医療・福祉施設等看護代表者会議が開催されました

2月1日にコロナ禍の中、標記会議がオンラインで開催となり、137名の看護代表者が参加しました。日本看護協会・静岡県看護協会の動向について静岡県看護協会渡邊会長より説明があり、その後令和2年度静岡県看護協会事業進捗状況と令和3年度事業計画について各担当理事から説明がありました。本年度は下記のように新型コロナウイルス感染症に係る静岡県看護協会の主な活動報告がありました。



新型コロナウイルス感染症に係る静岡県看護協会としての主な活動

- | | |
|---------------------|--|
| 令和2年3月26日 | ホームページに「新型コロナウイルス感染関連情報」を開設し、情報提供開始 |
| 4月 6日 | ホームページに潜在看護師の活用「復職に向けてのお願い」掲載
県内感染症指定病院に電話による状況確認、採用者のマッチング開始 |
| 4月 8日 | ホームページに「新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口」開設 |
| 4月14日 | ホームページに要望書内容及び回答についての情報提供 |
| 4月15日 | 静岡県看護協会版「新型コロナウイルス感染対応マニュアル第1版」作成し、
ホームページに掲載 <現在第4版> |
| 5月 8日 | ホームページに「手作りフェイスシールド」「ビニールガウンの作り方」掲載 |
| 1 5月15日 | 新型コロナウイルス感染症に伴う実態調査実施 |
| 5月15日 | 静岡県より依頼を受け軽症者収容宿泊施設における医療体制に関わる看護職募集 |
| 5月21日 | 静岡県健康福祉部地域医療課へ「7つの要望」提出 |
| 6月15日 | 静岡県看護協会版「訪問看護ステーションおよび高齢者施設における新型コロナウイルス感染対策マニュアル」作成し、ホームページに掲載 <現在第2版> |
| 7月13日 | 静岡県看護協会における研修実施の基本方針作成 |
| 8月 3日 | 県内保健センターからコロナ関係の求人を受領し、マッチング開始 |
| 2 8月 6日 | (~11月14日)感染管理認定看護師が在籍しない病院・訪問看護ステーション介護施設等への感染管理認定看護師の派遣事業開始
ホームページへ掲載 |
| 3 11月~3月 | 看護師養成所等における実習補完事業(県補助事業)開始 |
| 12月2・4日 | 県内求職登録者及び看護職離職時等届出制度登録者へコロナ対応の看護職募集のメール発信 |
| 4 令和3年 1月 7日 | 新型コロナウイルス感染症の自宅療養者及び濃厚接触者の健康観察事業開始 |
| ~3月 | 県委託事業 12月からナースセンター求職登録者へ働きかける |
| 1月18日~ | 感染管理認定看護師が在籍しない病院・訪問看護ステーション・介護施設等への感染管理認定看護師の派遣事業を再開し、ホームページへ掲載 |

2月17日より新型コロナワクチンが開始され、収束に向け一歩前進しましたが、今後も状況に応じ、看護協会として必要とされる事業に取り組んでいく予定です。

新型コロナウイルス感染症に係る静岡県看護協会の活動内容

1 新型コロナウイルス感染症に伴う実態調査

令和2年5月15日～25日

新型コロナウイルス感染症の発生により、看護・介護現場の状況の把握を目的とした施設調査を行いました。内容は静岡県看護協会会員の所属する病院・訪問看護ステーション・福祉施設等の看護代表者528施設528名に自記式調査表による実態調査であり、回収率は72.3%でした。今まで経験したことがない状況や今後どうなっていくか見えない中で、感染対策等で看護師の身体的・精神的な負担の大きさが明確に

なりました。また200床以下の医療機関や訪問看護ステーション・介護施設においては、感染管理認定看護師がほとんど在籍しておらず、相談機能も弱いことが分かりました。協会として「高齢者施設・訪問看護ステーションにおける感染マニュアル」作成や感染管理認定看護師派遣事業につなげました。実態調査報告書を作成し、関係機関・行政へ要望書を提出しました。

2 新型コロナウイルスに対応する感染管理認定看護師派遣事業

令和2年8月3日～11月14日

看護協会に在籍する2名のICNが感染管理認定看護師が不在の施設等で、新型コロナ感染予防対策についての相談・研修等を行いました。自施設の感染予防対策を強化し、新型コロナ感染症第2波への備えが出来る事を目的に13施設に14回訪問しました。「現場を実際に見て、対応が正しいかの確認」「職員へ感染対策研修」「現場で困っていることの相談」等を行いました。実際に訪問すると、各施設では熱心に

感染対策に取り組み、新たに追加する対策はほぼありませんでした。感染対策が継続できるように簡略化できる事や防護具の適正使用をアドバイスしました。訪問した施設の感想は「実際に見てもらえてよかった」「安心した」「今後相談できる窓口ができた」等でした。尚、この事業は新型コロナウイルス感染症の第3波を受け令和3年1月18日より再開しています。

3 看護師養成所等における実習補完事業

令和2年11月2日～令和3年3月19日

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、看護師養成所等における医療機関等での臨地実習が中止となりました。学内演習に代替した場合に学生が同等の知識と技能を習得するために、看護師養成所等で策定した実施計画に基づき、県内看護師養成所12校に多職種連携ハイブリットシミュレータと周産期全身実習

モデルの貸し出しと演習補助要員の確保を行ないました。1月末までに9校が学内演習を実施して実施校からは「経験値の少ない学生にとってシミュレータを使用した演習は、臨地実習に近い患者設定により、リアルな体験ができ大変効果的である」等の意見が聞かれました。

4 新型コロナウイルス感染症自宅療養者・濃厚接触者健康観察事業

令和3年1月7日～3月31日

保健所でひっ迫する新型コロナウイルス感染症陽性者等の健康観察を県から委託されました。対象者は①入院先の調整がつくまでの間自宅で療養している方②医師の判断により自宅療養が決定した方③保健所が濃厚接触者にあたりと判断した方に対し、毎日健康状態を確認し、体調不良の場合は速やかに保健所

へ連絡し引き継ぎました。また療養生活における不安を傾聴し対応しました。事業を行うにあたり協会に非常勤看護職員23名を採用し、一日7～8名体制で県内7圏域保健所より1日約400～600件の電話対応を行いました。

会員の皆様へ

令和3年度 静岡県看護協会 定時総会について

令和3年度静岡県看護協会定時総会を下記日程で開催します

日程：令和3年6月29日(火)

会場：静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ大ホール・海
静岡市駿河区東静岡二丁目3-1

※総会参加対象者は、令和3年度の正会員(会費納入：令和3年3月31日迄)となります。

尚、新型コロナ感染症の感染状況により、変更する場合はホームページ等でお知らせします。

地区支部活動

地区支部活動の目的は、看護を通して保健・医療・福祉の向上に貢献し、地域住民の健康サポーターとして健康の維持増進に寄与することです。会員の資質向上のための研修会や地域住民への啓発活動を行っています。例年、8地区の支部活動を報告していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、活動が大きく制限され、予定していた行事の中止を余儀なくされました。

今回の活動報告は、危機に直面した支部活動についての報告です。新型コロナウイルス感染症により以前のような日常生活を取り戻すことは難しいと思います。地区支部活動の新しい転換点となり、今後の活動の参考になれば幸いです。

熱海・伊東地区支部

支部長 鈴木 和美

熱海・伊東地区支部では「まちの保健室」「ミニ講座」「地域の防災訓練への参加」などを計画していましたが、今年度はコロナ禍によりイベントはすべて中止となりました。

「看護実践報告会」については、厳しい状況下で頑張っている看護職にエールを送り、自分たちの看護実践を分かち合えるようオンラインでの開催準備を進めています。コロナ収束はまだまだ見えてきませんが、看護を通じて地域住民の健康の保持及び増進に寄与できるよう、これまでと違う公衆衛生活動の方法についても模索しています。今後も地域住民の方々に看護協会を知ってもらい、また、会員や地域住民により有益で充実した地区支部活動を展開していけるよう企画していきたいと思えます。

オンライン看護実践報告会の打合せ▶



東部地区支部

支部長 石井 広美

今年度は、コロナ感染拡大防止のため不特定多数が集まる「イベントや災害訓練」「まちの保健室」「集会・講演会」は、安全確保を優先し中止としました。研究発表会も中止としましたが、研究原稿募集は、従来通り実施し、9題の投稿がありました。書面での共有を図るよう抄録作成し、99施設と個人会員の皆様に郵送する予定としました。

役員会は11回予定していましたが、8回に減らし、感染状況をみながらの会議となりました。東部地区はエリアが広いので、来年度はWEBでの会議も検討していく予定です。

収束が見えないコロナ禍ですが、地域住民の方々、会員の方々にどのような活動ができるかを模索し、できることから始めていきたいと考えています。



静岡地区支部

支部長 牛之濱 千穂子

静岡地区支部の役員数は15名です。

地域住民の健康保持推進及び福祉の向上に関する事業として、年間14回のまちの保健室事業と看護教室・看護実践報告会・災害に関する研修会や地区支部集会を予定しました。新しい取組として、静岡市とともに救護所への支援ナース育成研修の開催を予定しました。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、4月には緊急事態宣言が発令され、県民への外出自粛要請、学校等が休校になりました。4月に新しい役員とともに具体的な活動計画を整える予定でしたが、役員会が開催できず活動の延期・中止をするしかありませんでした。令和2年度は4役員会1回と7月から役員会を開催しました。再開した役員会では、どのようにしたら地域住民への健康保持や福祉について役割を果たすことができるのか検討しています。その思いこそが、看護師としての役割だと感じています。



志太榛原地区支部

支部長 齊藤 博子

コロナ禍の中、今年度は殆どの活動を中止せざるを得ませんでした。「まちの保健室I型」も4～8月まで中止しましたが、子育て相談の活動を待ち望んでいる方も多く、9月以降は感染対策に十分気を配りながら、1回3～4名のべ33名に育児・卒乳・排泄・食事等の相談に対応しました。相談者からは「色々な情報がある中で、専門のスタッフから助言してもらえると安心する」という声が聞かれました。また、看護教室マタニティスクールは1回に減らし、多職種が妊婦の教育を行い、講義の種類も多く高評価でした。相談では、一人ひとりに時間をかけ話を聞くことができ「心配や不安なことが減った」等の感想をいただき有意義な活動でした。

研修会においては、78施設と会員に資料を郵送しました。

新型コロナウイルス感染症終息の目途が立っていない中、今後はwithコロナに対応した新しい生活様式を受容し、地区支部活動を進めていきたいと考えています。



中東遠地区支部

支部長 津島 準子

中東遠地区支部でも他の支部同様、地区支部運営に多くの悩みを抱えることになりました。しかし、同じ悩みを抱える地区支部長同士の語らいの中から、この事態は未曾有の出来事であり、答えはどこにもない、自らが築くことが大切であると気付かされました。

そこで、当支部では「災害看護の研修」は実践するとし、再企画しました。東海アクシス看護専門学校を借用し、3つの教室でリモート研修を行いました。研修生及び研修時間は半減させ、講師と役員とが綿密な打ち合わせを行い、コーディネーターは役員が代行しました。質問に対するじゃんけん回答などを盛り込み、研修生からも概ね好評で「このような形式に感謝」というコメントも頂きました。これは、役員にとっても大きな自信に繋がったと思います。今までの形式にとらわれず、かつ看護師職能だからこそできることを模索しながら未来に向かっていけたらと思える1年でした。



西部地区支部

支部長 岩品 希和子

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、予定した計画全てを縮小しての活動でしたが、感染症予防対策を十分に行いながら現状できる範囲で精一杯取り組んできました。

看護の質向上に関する事業では、昨年も好評だった「認知症看護」に絞り研修を開催しました。研修生からは「認知症の患者への対応を振り返る機会となった」「改めて勉強したくなった」等の意見が聞かれ満足度の高い研修となりました。

災害支援に関する事業では災害看護地区研修を実施しました。残念ながら地域防災訓練が中止となったため、研修で得た知識や技術の実践はできませんでしたが、災害時の感染対策を考えるきっかけとなりました。

まちの保健室事業では、健康チェックはできませんでしたが、看護教室を中心に活動をしました。ふれあいセンターで主に高齢者を対象に骨粗鬆症やコンチネンスケア等の教室を開催し、楽しく学んでいただきました。

今後もコロナ禍のなか、どのようにしたら地域住民の健康増進に寄与できるか考えながら活動を続けていきたいと思っています。



保健師・助産師・看護師の三職能がそれぞれの専門性を深め、多職種と連携・協働しながら活動を展開しています。令和2年度の重点活動や課題について報告します。

保健師職能委員会

保健師職能委員会は、行政(県・市・政令市)、産業保健と介護部門から選出された7人の委員で活動しています。

令和2年度の活動目標は①地域包括ケアシステム推進に向けた保健師の資質向上②コロナ禍における地域間の保健師の連携強化③会員拡大の推進です。

令和2年度の研修会や交流会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、研修内容や研修形態を変更しました。

研修会では、令和2年11月3日に静岡県健康福祉部医療局疾病対策課長 後藤幹生氏が「静岡県の新型コロナウイルス感染症 静岡県の現状と対策」、浜松医科大学医学部健康社会医学講座教授 尾島俊之氏が「withコロナ時代の保健活動」を講演し52名の参加がありました。アンケートでは「コロナの現状について推移や地域別の状況がよくわかった」「コロナ禍での保健活動の在り方を考える機会となった」などの声が寄せられました。

11月3日保健師研修会▶



令和3年1月30日の交流会では、オンラインで静岡県健康福祉部医療局地域医療課技監 永井しづか氏が「静岡県の新型コロナウイルス感染症の現状と対策」について講演し、55名の参加がありました。「新型コロナウイルスの変異株やクラスター、ワクチン接種の進め方について理解が深まった」「定期的にコロナについての情報提供を行っていただきたい。命を守り予防的に関わる大事なキーワードをありがとうございました」等の意見が聞かれ大変好評でした。また、看護協会未加入の参加者も多く、入会を勧めていく予定です。

来年度は新型コロナウイルス感染症の研修会に加え、保健師助産師看護師の連携強化を図るための交流会を予定しています。また、引き続き保健師キャリア形成の推進についても検討していく予定ですのでご参加をお待ちしております。

1月30日保健師交流会▶



助産師職能委員会

助産師職能委員会は、7人で活動しています。今年度も全ての妊産褥婦・新生児及び全てのライフステージの女性に助産師のケアを提供するために、質の高い専門技術を提供出来る活動を目標としています。4月は「母子のための地域包括ケア」、7月は「助産師実践能力強化・倫理研修」、1月に「新人助産師研修会」また、3職能合同研修会では「意思決定支援」について計画していましたが、コロナ禍での開催が困難となり、研修はやむを得ず中止となりました。

経験したことのない未知なる感染症に対して各施設が日々努力している中、私達助産師職能委員に何か出来ることはないか検討しました。

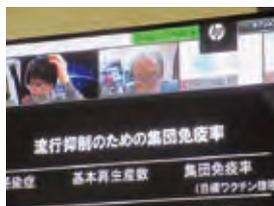
各施設での感染対策はしているものの、他施設での取り組みを知る機会はなく、手探りの状態であることに着目しました。そこで、県内の周産期医療の現状を共有することで、先の見えない戦いにわずかな光が射すことを願い、1月にこども病院周産期センター長 西口富三医師より「静岡県におけるコロナ禍での産科医療の現状について」、聖隷浜松病院MFICU課長 齋藤貴子助産師より「COVID-19 周産期病棟の対

応」について研修会をオンラインで開催する運びとなりました。

コロナ禍での研修開催がいつまで続くか不透明ではありますが、来年度は研修を中止するのではなく、オンラインを活用し、県内助産師が前向きに活動していくことが出来るように研修を企画していきたいと思っています。

助産師職能委員会は、一日も早く妊産褥婦・新生児が安心して過ごせる日々となることを願い、助産師の活動を支えていく発信源となるよう頑張っていきたいと思えます。

▼助産師交流会▶



看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）

看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）は、7名の委員で准看護師理事、ナースセンター、認定看護管理者会などのご協力を頂きながら活発に活動しています。

昨年1月中国より発生した新型コロナウイルス感染症は、全世界にパンデミックを引き起こし、危機的状況が続きました。「新しい生活様式」を取り入れることで少しずつ日常を取り戻しつつありました。そんな矢先、昨年末から襲ってきた第3波は、私たち職能委員会の活動にも大きな影響をもたらしました。委員各自が自施設での責務を担いながらも、委員としての使命を果たすべく「この状況下で私たちにできること」を懸命に考え前に進むことを決めました。そのような中、当初の予定を大幅に変更しつつこれまでとは違う交流会の持ち方を工夫しながら看護職に期待される役割、機能を発揮するための活動を推進しています。今年度の交流会は、主任・副師長たちがビデオ会議ツールZoomを使って行いました。テーマは「元気になる 副看護師長～コロナ禍の中であなたはどのように考え行動しましたか～」としました。講師は東京外国語大学非常勤講師 市瀬博基氏にお願いし「危機的状況下におけるポジティブマネジメント」の講義とグループワークを行いました。

看護師職能委員会としては初めてのZoomを使った研修でした。受講された皆さんも「初めて」の方が多かったですが、グループワークまでできたことが何よ

り学びにつながったようです。事後アンケートでは「自分がストレスをうまく発散させていくことが大切」「ポジティブに頑張ろうという気持ちになった」という感想や「もっと交流したかった」「Zoomに慣れていないが解決できるように努めたい」などの意見をいただきました。

今は大変ですが、柔軟にそして、ポジティブにどんな状況下でも「私たちにできることは何か」を考え前に進む委員会です。今後も皆様との交流の機会などから得られた意見を集約し、課題発見に努めたいと思います。



◀講師の市瀬先生



Zoomでグループワーク▶

看護師職能委員会Ⅱ（施設・在宅領域）

看護師職能委員会Ⅱ（施設・在宅領域）は、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、訪問看護ステーション、看護大学教員、介護付き有料老人ホーム等に所属している7人のメンバーでやりがいを持って活動しています。このように色々な立場で仕事をしている委員が会することで幅広い意見が反映できることもこの委員会の特徴であるといえます。

令和2年度は「その人らしく“生きる”を支えるために、切れ目なく協働できる看看連携を強化する」を基本方針に、研修共通テーマを「ケアの質を高めよう！」として、認定看護師の協力を得ながら地区別研修会を3回企画しました。しかし、コロナ禍により西部地区研修の集合研修は開催できませんでしたが、東部地区研修は中止しました。残りの中部地区研修「ターミナルケア」はZoomでの研修に変更し、地域別の垣根を越えて参加募集したところ多くの方に受講していただきました。

令和3年度は、これまで行ってきた地区別研修に加え、研修の機会が少ない施設・在宅領域の看護師にも気軽に参加してもらえるZoomでの研修を企画しています。研修テーマもこの領域ならではの「フィジカルアセスメントを身につける」を目標に、知識と自信

を持って施設・在宅の利用者の生活と健康を守っていくことを目指した内容を予定しています。

会員数の少ない在宅領域のクリニック等で働く看護師も巻き込み、日々悩みながら奮闘する同志をサポート出来たらと願っています。

また、病院領域だけでなく、保健師助産師看護師が切れ目なく連携・協働できるように昨年度開催できなかった「三職能合同交流研修会」を各職能委員が連携して開催していきたいと思います。



◀地区別交流会▼



人の一生を支える看護職

看護職の仕事は傷病者や妊産褥婦の療養上の世話をしたり、診療の補助を行うことですが、病院や診療所だけでなく、訪問看護ステーションや福祉関連施設、企業、行政などの活躍の場は広がり、看護職に対する期待も大きくなっています。そこで、県内の様々な場所で働く看護職を紹介します。

ナースドライバー



株式会社 伊豆おはな
河瀬 愛美

私は衛生看護科の高校を卒業後、専門学校を経て20歳で看護師になりました。大病院やがん専門病院、地域密着病院、療養型病院、通所施設や訪問入浴、施設で看護師として18年の経験を積みました。結婚後、熱海で週末移住をしていた時に外出に困っている高齢者を見た夫が「熱海で介護タクシーの仕事をしたい」と言い、完全移住。介護タクシーと訪問介護事業所の会社を起業しました。私も普通二種免許を取得し看護師の目線で通院や転院、観光などの搬送をしています。訪問介護・介護タクシーでの看護師は何をするんですか？と聞か

れ、自分の役割がわからなくなったこともありましたが、やり続けてわかったことがあります。「介護の現場に看護師の視点は役立つ」そして介護タクシーの仕事は「病院と在宅、病院と病院、医療と介護、人と人、思い出、希望、出会いなどを繋ぎ、看護師が活動できる新しい分野」だと感じます。医療・看護・福祉・介護を知っている一人として、『繋ぐ』をこれからもテーマにがんばります。さらに心のバリアフリーを広げ、笑顔がたくさんみられる地域になるように貢献していきたいと思っています。

健康保険組合の保健師とは？



静岡県農業団体健康保険組合
井上 朋子

当健保は同業種の企業・団体に設立する「総合健保」で静岡県下のJAやその関連団体の職員とその家族が対象です。健保組合は、企業や働く個人から収入に応じて健康保険料を預かり、医療費の一部(多くは7割)や高齢者を支える納付金を収める仕事をしています。健保の保健師は、医療費や納付金が増大しないよう、何より皆が健康に働くことができるようサポートします。当健保では担当事業所の依頼に応じて、健康づくりから生活習慣病予防、メンタルヘルス対応や様々な病気の方の就業と療養の両立支援も行っています。また健診結果、レセプトデータなど様々な数字と実際

の職場の声を拾い上げて組織の健康状態を分析し、事業所の人事管理部署と共に職場全体の健康づくりをサポートします。日々の相談内容と様々なデータから組織全体の課題を見だし、職場の人達と解決方法を探るプロセスは簡単ではないですが、相談者から「話せてよかった」と言ってもらえることが嬉しく、保健師としての面白さを感じます。多職種連携も重要で特に両立支援では、医療機関と連携をとって行うこともあります。もし機会がありましたら共に支援させてください。よろしくお願ひします。

患者さんに癒される私



医療法人社団心坂の上ファミリークリニック
市川 泰子

私は自営業の家庭で生まれ育ったので、人と接することは全く苦になりません。高校生の時、祖父が肺がんで入院し、お見舞いに行った病院で生き生きと働く看護師の姿を見て「これだ!!」と感じ看護師になりました。今まで総合病院、クリニック、保育園という色々な仕事をしてきました。自分の技術不足や経験不足、人間関係につまずいたり落ち込んだこともあります。寝たきりで発語のほとんどない患者さんにいつもと同じように声をかけながらケアをしていると、笑顔になりかすかな声で「ありがとう」と言われ

おどろきました。仕事の忙しさにイライラしていたけれども、患者さんに癒された瞬間でした。今は管理の仕事が多くなり寂しいです…。当法人では、クリニック外来、訪問診療、訪問看護、訪問入浴、在宅医療支援医院、老健、通所リハビリ、有料老人ホーム、がん患者のピアサポートなど様々な部署で看護師が活躍しています。入社後研修期間中には、法人内看護師とのつながりを持つために、配属部署以外にもいきます。看護師にはいろいろな働き方があります。これからも前に進み続けたいと思います。

第9回静岡県看護学会 今激動の時にこそしなやかに看護の本質を見つめ直す

学術研究推進委員 小野田 弓恵

2021年1月16日 第9回静岡県看護学会を開催しました。今回、はじめてオンライン(WEB)での学会開催となりましたが、多数の皆様にご参加いただき盛会のうちに終了することができました。

基調講演では、浜松医療センター 矢野邦夫先生から新型コロナウイルス感染症について最新の動向やエビデンスに基づいた感染対策についてご講演をいただきました。特別企画では「コロナ禍での看護の経験を語る」をテーマに、4名の看護実践者から病院・在宅・教育機関・看護協会における看護の実際について語って

いただきました。新型コロナウイルス感染症への対応については、現在も様々な現場で日々知恵を絞り奮闘しております。また、12題の演題発表は、患者の尊厳を守るケアの探求、創意工夫された看護実践や理論を用いた事例の振り返り等、他施設の取り組みを知る有意義な機会になったのではないのでしょうか。

現在、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、今まで当たり前だった事ができなくなっています。このような激動の時だからこそ、様々な困難にしなやかに立ち向かうことによって看護の本質に気づき、再び前を向いて進んでいけるものと信じています。



▶ 学会長挨拶



▶ 基調講演



▶ 講演発表

受講生募集

令和3年度4月・5月申込開始の研修紹介

No	研修名	申込期間
2	おさえておきたい糖尿病看護の基礎	4月1日～10日
36,37	看護研究の第一歩 - 研究テーマの絞込み -	4月1日～10日
53	新入会員研修 - 看護協会を知って活用しよう -	4月1日～15日
4	その人らしい人生の最終段階の実現に向けた看取り	5月1日～15日
7	臨床判断をOJTで活かして組織の看護力を高めよう	5月1日～15日
8	教える人としての私を育てる	5月1日～15日
9~11	(JNA収録DVD研修)認知症高齢者の看護実践に必要な知識	5月1日～15日
38,39	看護研究の基礎 - 研究計画書にトライ -	5月1日～15日
77	(JNAオンデマンド研修)医療人・組織人として必要な基本姿勢と役割	5月1日～15日
34	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	5月10日～20日

※ 詳細は「教育計画」のリーフレットやホームページをご覧ください

eラーニング研修も
4月から申し込み
が始まります



教育研修部職員紹介

新人看護職員研修、静岡県看護学会を担当しています。新人から徐々に社会人へ成長していく受講生に会えるのはとても楽しみです。趣味は旅行。特に信州が大好きです。



田代 美奈

令和2年度静岡県からの受託研修事業が終了しました！

事業部では、令和2年度静岡県から5つの研修事業を受託し、総勢1,049名の方に研修に参加して頂きました。11月以降、新型コロナウイルス感染症拡大により、集合研修から急遽オンライン研修になる等新たな研修の方法に苦慮しながらもすべての県受託の研修を実施することができました。コロナ禍でも昨年とほぼ同様の参加者数でした。

看護の質向上促進研修

感染対策について改めて学びそれぞれの施設でタイムリーに役立てることができました



暮らしをつなげる看護職員のための研修

感染防止対策で3密を避け収容人数を減らしてグループワークを実施しました



1,049名
が参加

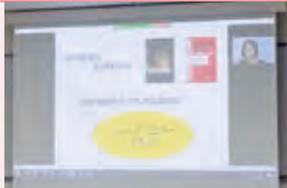
認知症ケア体制構築推進研修

オンライン研修で実施。アウトブレイクセッション機能を活用し、でグループワークもできました



高齢者権利擁護等推進事業

オンライン研修第一弾で、講師も担当者もハラハラしましたが、無事2日間できました



病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修

事前にDVDを撮影し、午前・午後に分けて合計10回開催し、延べ569名が参加しました



令和2年度 訪問看護出向研修支援事業 無事終了しました

一般財団法人芙蓉協会 聖隷沼津病院 秋山千春

研修前は自分に出来るか不安でしたが、訪問看護ステーションの皆様や、利用者・家族に支えられ研修を終えることが出来ました。在宅では環境が整っている人ばかりではありませんが、病気や障害を抱えながらも生き生きと暮らしていました。少しでも長く住み慣れた環境でその人らしく生活するために、病院から地域へと看護を継続させることが必要だと感じました。また、当院の良さや地域から求められている事を客観的に捉えることができ、良い学びとなりました。今回の学びを生かし、実践レベルでの活動やスタッフ教育に繋げていきたいと思えます。



藤枝市立総合病院 遠藤友香・田中英子

私は、3ヶ月間の出向研修で、在宅療養を支える訪問看護の重要性を深く理解し、病院で働く自分の役割や課題を持つことができました。また、訪問看護は利用者の生き方から学ばせてもらう事が多く、充実した時間でした。

(遠藤)

現在訪問看護師として勤務しています。研修で得た多くの学びを振り返りながら訪問をしています。利用者が自宅で安心して生活できるよう、病棟・外来看護師と連携し研修の経験を生かしていきたいと思えます。

(田中)



看護職離職時等届出制度(とどけるん)について

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、看護職員が約196～206万人必要と推計されるため、看護職員の人材確保を進めるために、2015年10月に離職時等の届出制度が努力義務化されました。2018年12月31日現在の看護職員業務従事者届出数は全国で1,660,071人、うち静岡県は42,007人(2.5%)でした。

2021年1月末までの5年3か月の看護職離職時等届出状況は、全国134,814人、うち静岡県は4,691人(3.5%)でした。引き続き、看護職員の方は離職時の届出にご協力をお願いします。

届出者数 (単位:人)

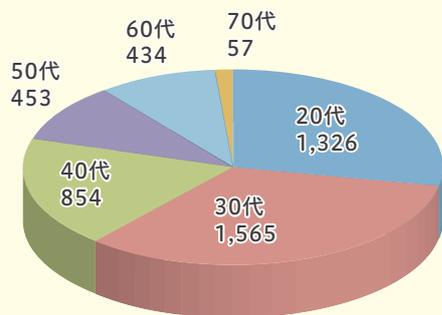


2015年度は6ヶ月、2020年度は10ヶ月のため月平均も表示

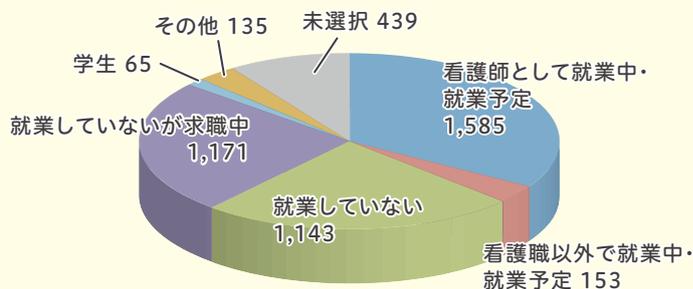
春は異動の多い季節です。
離職時等届出登録にご協力をお願いいたします。

2021年1月31日現在 静岡県在住の届出者(4,691人)の状況

届出者の年代 (単位:人) ※不明等2人を除く



就業状況 (単位:人)



ナースセンターでは届出登録をしていただくと就業していない方・求職中の方に連絡し、お仕事探しのお手伝いをしています。また、入力不足のある方にも連絡しています。

お引越しをされる際は、ナースセンターへもご連絡をお願いいたします。

また、ナースセンターは全国組織です。他県へ転居される場合もご連絡をお願いいたします。

悩みは誰かに話しましょう

話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

平日 9:00～16:00

054-202-1780 / 新人専用の悩み相談 090-2183-8734

☑ メールでも相談できます ▶ nayamishido@za.tnc.ne.jp

はなしてみよう

(公 社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

本 所: TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762

東部支所: TEL 055-920-2088 FAX 055-928-5037

西部支所: TEL 053-454-4335 FAX 053-401-3510

下田相談所(毎週木曜日9:00～16:00) TEL 080-2650-0327

天竜相談所(毎週火曜日9:00～16:00) TEL 080-2650-0237

申請資格のある方は、下記期間で登録をお願いします。期間を過ぎますと登録できません。

申込期間：令和3年4月1日(木)～4月30日(金) **必着**

登録者に対しては、半日研修を実施します

登録認定期間：令和3年5月1日～令和4年4月30日(1年間)

令和3年11月30日(火) グランシップ中ホール

申請資格

いずれかの研修修了者

●平成24年度

「災害支援ナース登録者フォローアップ研修」

●平成24年度・25年度

「災害支援ナース登録者移行措置研修」

●「災害支援ナース育成研修」

- 静岡県看護協会会員であり、看護職としての経験年数が5年以上の方
- 災害支援活動に意欲的であり、自己研鑽に努めている方
- 県看護協会が必要とする災害看護領域の各期において実践できる方
- 勤務施設及び所属長の理解と協力を得ることができる方
- 未就業の場合は連絡手段が確保できる方
- 派遣依頼に早急に応じることができる方
- 災害支援に支障がない健康状態にある方(年齢は問わない)

*「災害支援ナース個人登録申請用紙」はホームページからダウンロードできます

問合せ先 総務部 054-202-1750

医療安全情報
2020年度 第5弾

医療安全推進のための取り組み

働き続けられる職場づくり推進委員会

パルスオキシメータプローブによる熱傷

パルスオキシメータプローブにより熱傷をきたした事例が報告されています。

- ◆パルスオキシメータプローブは、パルスオキシメータ本体と接続して使用し、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)と脈拍数を連続して測定するセンサです。
- ◆小児や意識障害など意思疎通が十分にできない患者に限らず、一定時間ごとに装着部位の変更が必要です。

事例のイメージ



事例が発生した医療機関の取り組み

- パルスオキシメータプローブの添付文書で装着時の注意事項を確認し、記載された時間を目安に装着部位を変更する。
- パルスオキシメータプローブの装着部位を変更した際、装着していた部位の皮膚の状態を観察し、記録する。

上記は一例です。自施設に合った取り組みを検討してください。

参考 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報No.161

クイズに答えると、抽選で7名様にQUOカードが当たる!



問題

静岡県の受託研修を受講した人数は何人ですか?

応募方法

葉書又はメールで①答え②氏名③所属④電話番号⑤〒⑥住所⑦看護しずおかの感想⑧看護協会へのご意見をお書きのうえ、下記宛にお送り下さい。正解者の中から、抽選で7名の方にQUOカード(1000円分)を差し上げます。当選者は「Vol. 1」に掲載します(ペンネーム可)

■葉書の宛先

422-8067 静岡市駿河区南町14-25
静岡県看護協会総務部 看護しずおかクイズ係

■メールの宛先

kango@shizuoka-na.jp
又はQRコードから



応募締切日 4月21日(水)

当選者

「Vol.5」のクイズの答え: ナンを捏ねる作業

大河美紀様・太田郁子様・古井知恵子様・
ペンネームかおる様・ペンネームちーちゃんのママ様
ペンネームくまさん様・ペンネームメロン様

読者の の 広場

コロナ禍でもZoomを活用して
有意義な研修が行われており、
自分も学び続けようと思いました。

医療安全情報のコーナー良いですね。
忘れかけていた日常にありえる
事故を危険予知できます。引き続き
様々な事例を載せて欲しいです。